



9月の園だより

令和5年 9月 1日
目黒区立ひもんや保育園

プール遊びの中で、浮き輪やビート板のほかに5歳児クラスの子どもたちはペットボトルで大きないかだを作りました。初めは小さかったけれど、工夫してどんどん大きくなり、数人乗っても沈まないいかだができあがり、8月の終わりには、みんなの前でそのいかだに二人で乗って披露しました。また、泳ぎはもちろん自信満々で蹴伸びや星形（手や足を広げて浮く）をして披露し、得意顔です。その様子を見ていた3歳児クラスの子が部屋に戻ると床にうつぶせになり、今見た星形の再現をしていました。まだプールに入るのを怖がっているけれど年長の姿にあこがれ、自分もいつかやりたいと思ったのでしょうか。子どもの“やりたい”を感じた瞬間です。

乳児クラスの子も水遊びの中でいろいろな経験をしました。流れる水に不思議さを感じたり、水を容器にどうやって入れようかと工夫したり毎日が発見でした。また、2歳児クラスの子どもたちは水遊びで使っている細かなビーズやチェーンリング、カップやじょうろを分類して片づけられるようになってきました。日頃からお部屋の片づけでしていることですが、水遊びが終わる時間になると「これはどこかな」と使っていた玩具を片づけています。かごの中に違う種類のものが入っていると「先生、これ違うね」と気づいて戻しています。元場所に戻す、種類ごとに分類するという力がさらについてきました。



この夏のいろいろな経験を通して子どもたちが大きく成長したことを感じています。

9・10月の行事

9月 引き渡し訓練

10月 運動会（2、3、4、5歳児クラス）



10月 芋掘り遠足（4、5歳児クラス）

10月 幼児お楽しみ会

中旬 避難訓練・身体測定

～楽しかった夏の思い出(2歳児クラス)～

夏休みにご家庭で経験したことを嬉しそうに保育士や友達に話をして、再現しながら遊びが広がっています。

「いらしゃいませ～」とかき氷作り。水とチェーンリングを入れて、「いちごのかき氷です」とごちそうしてくれました。



お出かけした次の日に描きました。「これは山の手線、これはおひさま、ママと乗ったの。かっこいいの」と楽しかった思いを聞かせてくれました。

旅行で飛行機に乗ったことが印象的だったようでブロックで飛行機を作っています。「おにもつのせるの」「ひこうきははねがあるんだよ」と言いながら、その時に見た飛行機を引くトラックや荷物を乗せるトラックも作り、車庫に見立てたテーブルの下にしまっています。



幼児クラス プール遊びの様子



たんぽぽ組 (3歳児クラス)

保育園での初めてのプール遊びでした。最初は水しぶきがかからないように背中を向けていたり「顔にかかったー」と泣いたり怒ったりする子もいました。そこで、プール遊びが楽しいと思えるように、水の中でアヒル歩きをしたり、保育士の背中に乗ったりと、無理強いせずスキンシップをとりながら見守ってきました。8月になり毎日プールに入れるようになると、水がかかるのが苦手だった子も「先生にかけちゃおう」と水しぶきをあげて楽しめるようになりました。さらに水に慣れてくると、ビーチボールやビート板、ペットボトル等を使って“浮く”遊びに挑戦しています。体がフワッと浮くことが面白くて何度も楽しんでいるうちに、リラックスしているんなポーズにも挑戦できるようになりました。ワニ泳ぎ、人魚やラッコなど、自分のなりたい水の生き物になりながら水の中を泳いでいるつもりになり、満面の笑みを浮かべている子どもたちです。

子どもたちと一緒に夏の暑さ、水の冷たさ、浮く楽しさを共有したプール遊びでした。



こすもす組 (4歳児クラス)

一年ぶりのプールに「水しぶきいやだー」と言っていた子もすぐに慣れ、日に日にダイナミックに遊ぶようになりました。フープのトンネルも「みててね」と、顔をつけてくぐりぬけをする友達を見て「わたしもやってみる」「ぼくも、もぐるからね」と真似をしています。“やってみたらできた”と、自信満々に繰り返して嬉しそうな笑顔を見せてくれました。水に顔をつけることが苦手な子も、そんな友達の姿を見て刺激を受けたようで「顎までつけてみる」「鼻の下までつけてみる」とドキドキしながらも挑戦していました。別の日には、背泳ぎのようにあお向けに泳ぐ友達を見て「僕も」と言う子がいたので、保育士は溺れないようにと手を添えながらそばで見守りました。仰向けで手足をバタバタさせる姿に保育士は思わず「大丈夫？」と声を掛けたのですが、そんな声も耳に入らないくらい誇らし気に「できたー」と笑顔を見せてくれました。プール遊びを通して、子どもたちからの『やってみよう』という姿を沢山見ることができました。

一人ひとりが得た達成感や自信を次への活動への意欲に繋げていきたいと思います。



ひまわり組 (5歳児クラス)

浮き玩具を使って遊んでいたのが保育士がペットボトルを用意しました。1個のペットボトルではうまく浮かないとわかると「つなげたら？」という声があり2個つなげてみました。数日後、「もっと大きくして乗りたいね」という意見が出たので、早速12個のペットボトルをつなげていかだを作りました。落ちないかドキドキしながら試乗し、浮くと「乗れたよ」「やったね」と歓声があがりました。

さらに数日後、今度は「ここに寝てみたい」「もっと大きくしよう」「枕もつけない」という意見が出ました。ここまできるとガムテープでつなげる作業の手順もわかってきて、友達と協力して押さえたり貼ったりしています。大きないかだが完成し、見事に寝転がることができると「気持ちいいー」と嬉しそうに満面の笑みを浮かべていました。なかなか思うようにいかず、失敗してつなぎ目から折れてしまうこともありましたが、数人で乗ることができるいかだが完成し大満足の子どもたちです。子どもたちから「もっと〇〇したい」という意欲や、友達と協力し自分たちで作り上げた喜びを感じている姿に年長児らしさを感じました。

